

高校時代の思い出

林田 明

これまでも 取り上げられてきた高津時代の思い出として 私は 高校へ入学して
まず その充実した授業内容に驚いたことでした。

学校へは学区制に従って 自宅から遠くの最寄り駅まで歩き それから省線「J R」の鶴
橋駅経由で通いましたが 他にも 近鉄線を利用していた生徒達もかなりいて、また2、3
年の生徒もおられたので 何か新鮮な学校へ入ったように感じていました。

私は 小（国民）学校、中学校（新制）とも借り校舎でしたし 受けてきた授業は 戦中・
終戦直後であったとは言え 高校での授業とは 科目の難易は別にして その内容に格段
の差を感じました。高校では各科目とも 素晴らしい先生方の授業で 数学の先生方など
質問にも黒板全面を使って 一生懸命に教えて下さっていたことは 今も懐かしく思い出
します。

生徒は各学年で クラス別に分かれていましたが 特に担任の先生と個人的に語り合うこ
とはなく また 他クラスの方とは 部活動に係らないと 名前は知っていても 親しく
話し合った覚えは殆どありません。

部活動では 野球部の練習をよく見ていて 選手のレベルの高さに圧倒され 私は入部
を諦めましたが 後で親しく交流できた方もいました。

戦後 大阪の高校野球については 以前にも書きましたが 強豪校は 旧制中学時代から 浪華商業など 私立高校が常連校で その中へ 八尾 北野 天王寺 高津が入って 甲子園出場をはたし 大阪高校野球の歴史に 大きな足あとを残しています。

ご存知とおり この傾向は私たちの在学中にも引き継がれ 同期の2年生が主体となって 大阪 夏の大会の準決勝戦まで 進んだことは 私たちの誇りでした。



公立高校の進出も 昭和30年初め頃までで その後は PL, そして大阪桐蔭 履正社高校などと また野球の強豪校が 甲子園の常連校になっています。全国区でも(特定高校の21世紀枠での甲子園出場対応策 が採用されているとは言え)同様の傾向があり 一般的な高校での野球部活動は どうなっていくのかと思っていましたところ 今年の大阪高校野球予選の 新聞記事を見ていて ある変化の起こっているのを知りました。

それは連合チームが 予選に出場していたことです。(このことは 私が知らなかっただけ

で 実際には2－3年前から他府県でも
連合チームで出場していたとのことです
高野連によると2025年の予定では 出
場校3369チーム中 連合チーム155
チーム：439高校、 もあったようです)
どの様な事情で 数校が集まって連合チー



ムを結成したのかは知りませんが 公立高校などI高校では部員が少なく 同様な状況の
他高校と一緒にになってIチームにまとめ 野球を楽しめたのであれば よかったと思いま
す。

少年たちの野球人口が 減少傾向にあるなか、野球専念の学校が 多くの部員を集めて甲子
園出場を目指す一方で 連合チームを組んででも 野球試合を楽しみたい学校が進出して
きたことは 高校での運動部やその他の部活動でも 新たな時代に入ってきたように感じ
ます。